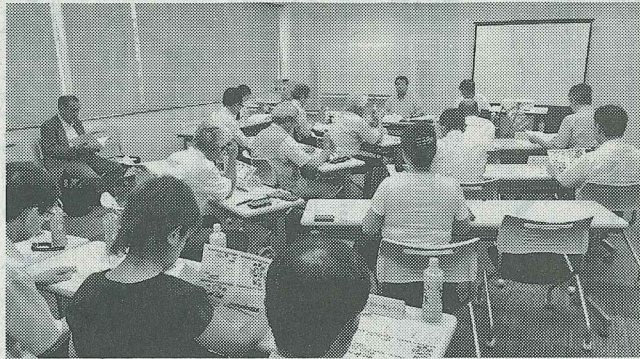


石膏ボ、リサイクル推進を

産・官・学から参加



再生石膏粉の有効利用 ガイドライン策定委員会

環境省が実施する2017年度「環境研究総合推進費」の新規課題に採択されたプロジェクト「廃石膏ボード

リサイクルの品質管理の在り方と社会実装」に基づき、7月31日都内で「第一回再生石膏粉の有効利用ガイドライン策定委員会」が開催された。

同委員会は、再生石膏粉の品質や土木工事などで利用する固化材・改質剤向けのガイドラインの作成を目的とし、18年の完成を目指す。

す。これまでガイドライン作成を進めてきた全国石膏ボードリサイクル協議会も参加し、協力している。

本委員会では専門家からなる作業部会が作成した素案を基に各委員が意見を述べ、ガイドラインの構成や適用範囲、品質評価、検査方法などについてディスカッションが行われた。これをもとにさらに作業部会が意見を集約、ブラッシュアップし、来年2月に行う第2回のガイドライン策定委員会で改めて議論する。

ガイドライン策定委員会には委員長を務める福岡大学教授の佐藤研一氏をはじめ、委員としては国立環境研究所の肴倉宏史氏、土木研究所の小橋秀俊氏、東京理科大学教授の菊地喜昭氏、山口大学准教授の森啓年氏の他、ゼネコンからはフジ

関係する分野の専門家が
集った

タ、大成建設、清水建設の担当者に加え、コンサルタント会社である応用地質、日本工営の担当者、さらに全国石膏ボードリサイクル協議会からは太田敏則代表、建設廃棄物協同組合からは顧問の小野雄策氏が名前を連ねており、当日もほぼ全員が参加した。

課・課長補佐の上野洋一氏、経済産業省生活製品課・課長補佐の松田剛氏が参加した他、(公社)全国産業廃棄物連合会、(一社)日本建設業連合会、(一社)石膏ボード工業会、(一社)セメント協会からも担当者が参加した。作業部会でガイドライン案作成の中心の一人であり、同プロジェクトの代表である国立環境研究所の遠藤和生氏も参加した。なお全体の事務局は(一社)泥土リサイクル協会が務めている。